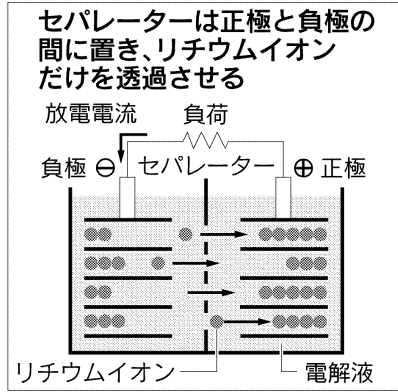


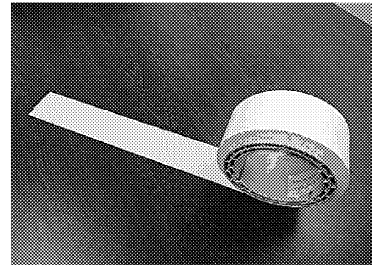
セパレーター、耐熱200度

リチウムイオン電池用

リチウムイオン電池のセパレーター（絶縁材）専業で東証マザーズ上場のダブル・スコープは耐熱性が高く、電池の発火事故などを防ぐ機能を持つ新たなセパレーターを開発した。競合他社の製品に比べ、高い温度に耐えるとする。既にサンプル出荷を始めており、今年後半から本格量産に入る。2015年をめぐりに出荷量の約3割を付加価値の高い新製品に置き換え、売り上げ300億円を目指す。



ダブル・スコープ 今年後半から量産



ダブル・スコープが開発した耐熱性が高いリチウムイオン電池用のセパレーターフィルム

ダブル・スコープが今回開発した新セパレーターは、従来品より耐熱性を高め、セ氏200度まで1分間保持しても破損しない耐熱性を備える。同社によると、他社品の耐熱性はセ氏約160度までで新製品は業界で最も高い耐熱性を備えるとする。セパレーターの破損は発火事故に直結するため、安全性の高さを重視する自動車やスマートフォン（高機能携帯電話、スマートフォン）など携帯機器向けの需要

▼セパレーター リチウムイオン電池の主要部材の一つで、正極と負極を絶縁するごく薄い樹脂フィルム。リチウムイオンだけを透過するごく小さい穴を持つ。電池に異常な発熱などが起こった場合は溶けて穴を防ぎ、イオンの通過を止めて反応を停止させ、電池の発火を防ぐ機能も備える。

1.ダブル・スコープによる注記文中1分間保持との記述がありますが、当社では1時間と公表しております。

を見込む。厚さ30ミクロ（マイクロは100万分の1）以下から10ミクロ以下の薄さの製品まで提供する。セパレーターが薄いほど電池の容量が高めやすく、スマートフォンなど小型のリチウムイオン電池にも向く。また電解液がセパレーターに染み込む速度を従来品の2倍に高めた。これにより電池の製造時間を短縮できるといふ。新製品は6月に稼働予定の新しい製造ラインで製造する。2013年中に10社程度の採用を見込む。調査会社のテクノ・システム・リサーチ（東京・千代田）によると、小型リチウムイオン電池向けのセパレーターの世界市場規模は10年に6億3500万ドル（約500億円）、11年には39%増の

8億8500万ドル（約780億円）まで伸びる見込み。旭化成イーマテリアルズ（東京・千代田）や東レなど日本勢が高いシェアを握る。ダブル・スコープは韓国サムスン電子出身の崔元根社長が05年に日本で創業。中国や米国などの新興電池メーカーに販路を広げて売り上げは33億8200万円。従業員は113人。

などの大幅な減免を受けられる韓国に工場を構え、固定費を削減しているため価格競争力が高いとする。11年12月の売り上げは33億8200万円。従業員は113人。